

おめでとうございます  
第五十七回展  
入賞・入選者の言葉

第三部 二席  
原 禎子(札幌)



私のカメラ生活は、思えば十年前程前道  
新の「やさしい写真教室」で学んだ仲間との  
楽しさに始まり現在に至っている。最近友人の  
勧めで道写協に入会、以来否応なく他作品  
との比較、講師の方々の講評等に背中を押さ  
れて、やっと自己満足の世界から一步ふみ出  
すきつかけを得た気がする。ここしばらくは  
赤井川に魅せられ、早朝或は夕方と通いつめ  
たが、太陽の位置と時間帯等の関係で、空ぶ  
りの悔しさを何度味わったことか。

この度受賞した作品は中でも最もシンプル  
で、最もコンテストには不向きと自分には思  
われた一点だったことから、驚きと勿論喜び  
は超特大であった。これからも今までどおり  
無心でファイナダーに向い、その時々感動  
を素直に表現するという姿勢を失わずにい  
きたいと思う。

初挑戦・初入選  
坂口チヨ(函館)



私はバードウォッチングが趣味で探鳥会に  
集うだけでは飽き足らず、暇を見ては出掛け  
ていました。時折予期せぬ鳥達との出会いや  
行動に感動させられ、証拠写真があったなら  
楽しみが倍增するのではと思ひ写真を始め  
ました。我が家の近くに水源地があり、そこへ

秋五十羽程のオンドリが羽を休めておりま  
す。毎年この期私はオンドリ片思い病になり、  
その訳は何度通つても撮影チャンス無かつた  
からです。そんな私に同情してくれるオンド  
リ大ファンの先輩が「越冬地ならインパクトの  
ある写真が撮れそう」と鳥取県へ撮影旅行を  
招待してくださいました。現地は予想外の事  
が多く撮影は順番待ち、鳥達は広範囲に散  
らばり殆んど休息中、唯一餌を探しに来る時  
がシャッターチャンスで作品「飛沫」は私達の  
頭上を列車が通り、その音に驚き二斉に飛び  
去る一瞬を写せたその中の一枚でした。

二部門 入選  
荻田 貞子(札幌)



第一部入選のモトクロスは木古内での大会  
で撮影したものです。モトクロスは躍動感にあ  
ふれ危険との隣り合わせに挑む選手達の姿に  
魅力を感じます。特に当大会では緑の樹々や  
泥道、小川等を走るので自然との一体感があ  
ります。水しぶきをあげて小川を疾走する選  
手、始めは高速シャッターで写していました  
が、アドバイスを受けてスローシャッターに挑  
戦しました。失敗の連続です。今度こそはと心  
に念じながらようやく成功したと思つたのが  
入選した一枚です。

第三部の初霜の写真と共に動と静の二部門  
を入選出来たのは私の喜びです。写真を始め  
たきつかけは友人に誘われて写真教室に入つ  
た簡単な動機でした。ようやくスイッチが入つ  
たのは道展に応募した時です。今は作品を作  
ることの難しさに悪戦苦闘、日々努力あるの  
みと思つています。

三部門 入選  
貝沼 正雄(小樽)



写真を始めたきつかけは二〇〇六年夏沖  
縄県小浜島のリゾート「はいむるぶし」にて、  
海に沈む太陽と夕景があまりにも美しく一  
時間程見ておりましたが、その時の感動が忘

れられず二〇〇八年に道新文化教室に入り  
ました。

一部は夏、札幌芸術の森でのモデル撮影で  
清々しさを出すよう工夫した一枚です。

二部お久しぶりは、冬の小樽祝津でおばあ  
ちゃんの鯨に対する愛情と苦勞と喜びが顔  
のシワとなって現れてくれる様に願つて撮り  
ました。三部蒼の刻は、初冬のオンネットウで早  
朝マイナス二十度、厳しい寒さを表現できる  
様に撮った一枚です

初入選

小坂橋 勝二(恵庭)

この度写真道展に入選の知らせを受け予想  
もしておりませんので驚き半分嬉しさ半分で  
した。老後の趣味として小さなカメラを買い、  
すぐ一眼レフに替えてから写真が持つている力  
に魅せられ奥深さを感じています。北海道に  
来て恵庭支部に入会し三年半になります。以  
前は自然風景を撮っていました。例会で色々  
な写真を見、知識を与えてくれた皆様のお陰  
で人物に挑戦出来ました。この写真は恵庭の  
花とくらし展に行くトンネルを見てひらめき  
ました。人物だけでは物足りないので試行錯  
誤していると自転車 came ので人物と重なら  
ない位置で撮りました。写真というものを使つ  
て人間の可能性を引き出す事が出来るものだ  
と思いました。